

# 第41回

# うつのみやこども賞だより

## 令和6(2024)年度 9回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

### 《今月選ばれた本》

### 『おおなわ跳びません』

赤羽 じゅんこ／作 マコカワイ／絵（静山社）



令和7年2月 2日

### ～読んだ本の感想より～

- まるでおおなわで物語をむすんでいる気がしました。
- 人それぞれの意見はバラバラで、大なわ大会のことが問題になったけど、話し合いを進めていくにつれ、心が一つになって良かった。
- 生まれつき足のわるい双葉は、おおなわとびませんと言ったけど、学級会で双葉はどうしたらとべるかを考え、最後に大会ではうまくとべたのがいいと思いました。
- 双葉の気持ちに寄りそって新しいルールなどを考える、舞花や星斗たちの姿がとてもかっこ良かった。
- おおなわを全員でとんだほうがいいと思う人や、とびたくない人はとばないほうがいいという人がいるから、とても難しい問題だと思った。
- 双葉のようにハンディを持つ子のために、五年二組のみんなで新しいルールを考える子ところがおもしろかったです。

『再会の日』中山 聖子／作 藤井 紗和／絵（岩崎書店）

- せっかく妹と再会したのに、妹がじゅくに行ってしまうと思いハラハラした。
- 何年も会っていないみれいとのかよりをがんばってちぢめようとするところや、ぶつかるところをみて、思わずおうえんしたくなりました。
- みれいに会いに行く決意をしたはるかの行動力をすごいと思った。子供が一番周りに気をつけて行動していると思った。
- 陽架と未怜がつかれ出されるところがヒヤヒヤした。
- 父・母が離婚して、再開する日が決まったとき、父・母、姉妹はどのような反のうをするのか気になって、早く続きが読みたいと思える本だった。

『かわいいわたしのFe』

神戸 遥真／作 はーみん／絵（文研出版）

- 確かに、「男女差別をなくそう」となっている今でも、電車は男の子向けとされる事が多いし、自由に「好き」を楽しむのは難しいと思いました。
- 白石さんはかわいいキャラなのに鉄道好きというギャップがおもしろいし、かわいいなと思いました。
- 羽ヶ崎くんが言った、「人生短かいし、好きなことやった方がいい」という言葉が心に残った。
- 「キャラ」をつくるんじゃなくて、自分がしたいことができてよかった。

『チカクサク』

今井 恭子／作 いたう あつき／画（くもん出版）

- 言葉を発することができなかった英治が言葉を初めて発することができたのは、弟を失ったしゅんかんだった。その場面が心に残りました。
- 戦後のお話で共感しにくいところはあったが、戦争でけがをしている人が、ものごいしているシーンが何だかかわいそうに思えてきた。
- お母さんからはなれて、旅にいこうとさそってくれたお母さんの弟がやさしいなと思った。